

ellipse

[エリプス]

TOPICS

お茶の水学術事業会の歴史を振り返る(下)

—お茶の水学術事業会の活動と今後—

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津千鶴 FUKATSU, Chizu イラストレーター
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。



特定非営利活動法人

お茶の水学術事業会

REPORT

夢のつばさ♥プロジェクトニュース

COLUMN

事業会スタッフのよもやま話

INFORMATION

イベント情報

事務局よりお知らせ

TOPICS

お茶の水学術事業会の歴史を振り返る（下） —お茶の水学術事業会の活動と今後—

NPO 法人お茶の水学術事業会（以下、事業会）が発足したのは 2002 年 12 月 9 日。それから 22 年が経過し、「そもそもどのような経緯でこのような団体が設立されたのか」を知る人も少なくなりました。そこで、故本田和子 第 13 代学長と共に事業会の起ち上げに尽力された篠塚英子氏と歴代理事長（初代：村重嘉文氏・第 2 代：平野由紀子氏）に、座談会形式でこれまでのことを振り返っていただく機会を設けました（司会：柴眞理子第 3 代理事長）。今回は、事業会の活動と今後の展望についてのお話をご紹介します。



向かって左から、柴眞理子理事長、平野由紀子氏、篠塚英子氏、村重嘉文氏

1. お茶の水ブックレット

篠塚 氏： NPO 法人を起ち上げたそもそものきっかけは、お茶の水女子大学が国立大学法人化するにあたり、財政基盤を支援する独自の仕組みを作ろうということでしたが、実際にどのような活動をするかと考えた時に、まず浮かんだのは、広く教員の知的活動を広報するためにお茶大の先生方の本を出版できる組織を盛り込みたいということでした。それで、定款に、事業内容として「学術関連等の出版事業」「教育・研究等に関する啓発書の発行」を盛り込んだのです。そうは言っても東大出版会や三田出版会のように大規模にはできませんから、大学の活動や研究成果を発信するワンコイン（500 円）の小冊子を発行することにしました。それがお茶の水ブックレットです。

平野 氏： 第 1 号『教育と平和～アフガニスタン女子教育支援シンポジウムから』が出たのは 2003 年でしたね。

篠塚 氏： 本田和子先生が学長になられた 2001 年にアメリカ同時多発テロが起こり、アフガニстанを巻き込んだ「対テロ戦争」が勃発し、それ以前から戦乱状態が続いていた同国の復興支援、中でも女子教育の再建が国際的な課題となっていました。当時、お茶大でも女性教員が、ジェンダーの視点から何かできないかと考えていましたし、文部科学省からも本田先生に「お茶の水女子大学はアフガニスタンの虐げられている女性の教育支援ができませんか？」と打診がありました。話し合った結果、他大学と力を合わせればできるのではないかということになり、本田先生が、奈良女子大学、津田塾大学、東京女子大学、日本女子大学の学長に声をかけ、

2002 年 5 月に五女子大学コンソーシアムを結成しました。そして、12 月 18 日に、緒方貞子氏へのお茶の水女子大学名誉博士号第 1 号の授与式とアフガニスタン女子教育支援シンポジウムを同時開催したのです。

今、世界のさまざまな国や地域で新たな紛争が起きています。この取り組みが見直されています。そういう意味でもブックレット第 1 号は貴重な記録ですね。

お茶の水ブックレットは、平野先生の大学院修士課程のご友人である河井扶桑子さんが、音源の文字起こしやリライトを担当していただきました。数年前に出た、ノーベル賞受賞者の大村智先生の講演録（第 11 号『私の半生と出会った女性たち』）も河井さんが担当され、とてもいい本でした。

現在、第 12 号まで出ていますが、在庫切れになっている号もあるようです。お茶の水ブックレットは、事業会の一番の財産と言っても過言ではありませんし、今や本は紙ベースのみではない時代なのですから、デジタル対応も考えたらどうでしょう。

2. 同窓会とお茶大ゴルフ

村重 氏： 事業会は当初から、大学の先生方だけでなく、附属学校園と大学の同窓会—ちぐさ会（幼稚園）、茗鏡会（小学校）、鏡影会（中学校）、作楽会（高等学校）、桜蔭会（大学）の役員が理事として名を連ねています。そういう意味では「オールお茶の水」の支援組織ですね。

篠塚 氏： 本当に同窓会の方たちが色々と協力していただきました。

村重氏：例えば、大学生協でも販売しているお茶大ゴーフルは、当時理事であった作楽会の江澤玲子さんの発案でスタートしたもので、江戸時代に上野風月堂を創業した大住家の方が附属高校のご出身で、江澤さんと親交があったことがきっかけでした。

その後、パッケージや価格に変更されましたが、今や、お茶大ゴーフルを通して事業会を知ってくださっている方もいらっしゃると思いますね。

篠塚氏：NPOは利益を上げることが目的とした組織ではありませんが、最初のアイデアとしては、どんどん大学発の商品開発をしていこうということもあったのです。ですから、事業の中にわざわざ「衣料品、文具、生活雑貨の企画販売事業」を盛り込みました。でも、お茶大ゴーフルに続く新しいアイデアが出てこないのが残念ですね。

柴氏：また同窓会の方々のお力をお借りすることを考えても良いかもしれません。

【お茶大ゴーフルの変遷】



大きなことだったと思います。

村重氏：当時、給食室の衛生面が問題となり、学校給食が中止される事態になっていた中で、事業会からの助成金が改修工事の火付け役になったことは事実ですね。

附属小学校は、文京区保健所からの指摘を受け、2007年12月より学校給食を中止していた。

事業会では、2008年3月の理事会において、篠塚氏(当時理事)より「事態の緊急性に鑑み、附属小学校給食施設補修のための寄付を事業会として大学側に提案すること」が提起され、同年6月、総会の承認を経て、「附属小学校給食施設設備改修」を目的とする「大学運営基金」3,000万円を寄付した。

平野氏：翌年のホームカミングデイの時に、大学から感謝状をいただきましたね。

篠塚氏：2004年12月にお茶の水女子大学後援会が設立され、事業会は大きな方針転換を余儀なくされ、規模も大幅に縮小しましたが、スタート時にお寄せいただいたご寄付は、大学の財政支援に使う目的で積み立てていたのです。だからこそ、あの時に迅速な対応ができました。

事業会の存在意義の一つであり、この点は今後も変わらないと思います。

「ellipse」19号(2009年5月)



「ellipse」21号(2010年1月)

「ellipse」のバックナンバーは、事業会HP「活動報告」内「会報「ellipse」一覧」でご覧いただくことができます。

<https://www.npo-ochanomizu.org/activity.php>

3. 助成金事業

柴氏：事業会は、「教育・研究活動に関する事業」の一環として、年間総額25万円ぐらいの規模で、講演会の共催、助成金事業(学術・調査・研究・教育等の活動運営支援事業)を行っています。

それとは別に、2008年に附属小学校の給食施設を改修した際には、大学に3,000万円の寄付をしましたね。現在、附属小学校の食育が非常に充実していることを考えると、

4. 今後に向けて

柴氏：事業会の会員は2024年3月31日の時点で236名でした。これまで表立って勧誘に力を入れてこなかったこともあり、現会員の多くは事業会のスタート時に入会された方々で、徐々に減ってきているのが現状です。

村重氏：現代の少子高齢社会では、事業会に限らずどの組織も会員を維持・拡大することが大きな課題の一つとなっています。

事業会は、学会活動の運営支援事業(事務代行業務)には定評があります。スタッフの仕事ぶりは言うまでもなく、お茶大の構内に事務局を置いているという点でも信用を得てい

るのです。

それから、室伏きみ子さん(第16代お茶の水女子大学長、前事業会理事)が手がけられた、東日本大震災で親を失った子どもたちを支援する「夢のつばさプロジェクト」が今も継続しています。スタート時から(株)ブリヂストンが支援してくださっていますが、それはやはり意義のある活動だからでしょう。

最近、事業会のホームページがスマートフォンでも見られるようになりましてから、閲覧してくださる方が増え、事業会の活動を知っていただけるといいですね。

あとは、助成金事業などを通して、学外の方、特に地域の方との結びつきを作っていくことも、会員の増加につながるかもしれません。

柴氏: ここまでお話を伺って、真剣に議論を重ねて事業会が設立され、紆余曲折を経て今日まで継続してきたことがよく分かりました。

事業会の定款には、様々な事業が挙げられていますが、実際になされているのは、その一部です。事務局や運営スタッフのキャパシティとのバランスはもちろん大事ですが、まずそれありきにしてしまうと、「発展」ということは考えにくいように思います。理事会で、事業会の元々の趣旨に照らして議論し、「やはり、これは必要だ」と考える事業があり、スタッフが足りないのであれば募集する、という視点も必要ではないでしょうか。

それから、研修会への助成など、附属学校園の先生方や同窓会、後援会の方々に事業会の存在意義を認識していただけるような事業を展開していくことも考えた方が良いように思います。

平野氏: 今、皆様のお話を伺いながら、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ(1880-1964)という建築家のことを思い出していました。明治時代にYMCA派遣の英語教師として来日し、滋賀県で伝道活動をする一方で、数多くの建築物を残し、さらに伝道活動を支えるために、ヴォーリズ合名会社(近江兄弟社の前身)を立ち上げた方です。メンソレータムの会社ですね。

ヴォーリズの伝記を読んだり、彼の会社に勤めた方達の書いた記録を読むと、戦前のことですが、夕方になるとテニスをしたりしていて、当時の日本の一般的な会社の運営理念では及びもつかないようなゆとりのある働き方をしていたようなのです。つまり、利益を生んで、自分も利益を得て、さらに、それを資本としてどんどん増やしていこうという考え方とは異なる働き方の実験系みたいなもので、今で言うNPOみたいなものを考えていたと書いてあるのです。

確かにNPO活動には、そういう側面がありますよね。事業会の理事たちは全員、「少しでも良くしよう」という気持ちだけで、無償でこの活動に関わってきました。

村重氏: だから私はNPOは「Non-Payment “お手伝い”

の略だって言っているんですよ。女房には、「あなたの場合、“おせっかい”です」って言われますけど(笑)。

平野氏: だからやっていて気持ちがいいのです。

篠塚氏: 事業会を設立するにあたって考えたことは、大学を財政的にバックアップする仕組み、学術研究の成果を発表する仕組み、卒業生および近隣の女性たちが社会に羽ばたく場の提供、の3点でした。22年を経た今、いずれも少しずつですが片鱗はみえているかもしれません。

ただ、このままでは会員減少でどんどん先細りですから、今後どうしていくかを真剣に考えなくては……。 (了)

【参考】お茶の水学術事業会の事業 定款第5条(事業の種類)より

特定非営利活動に係る事業

一 教育・研究活動に関する事業

1. セミナー、シンポジウム等開催事業
2. リカレント・リトレーニング等講座開設事業
3. 国内学会の企画運営、国際学会等の準備事業
4. 講演等の講師派遣・聴取等事業
5. 学術・調査・研究・教育等の活動運営支援事業
6. 学術関連等の出版事業

二 国際交流に関する事業

1. 学生の国内・国際学会出席等事業
2. 国内及び海外におけるボランティア活動等事業
3. 国際協力における大学間連合等への研究・教育事業
4. 留学生の交流活動事業

三 教育研究施設等の整備保全に関する事業

1. 奨学金運営事業
2. 保育及び子どもの健全育成のための助成事業
3. 学生寮等学生生活への助成事業

四 経済活動における男女共同参画促進事業

1. 女性ベンチャー起業への助成事業
2. 女性事業家・起業家育成のためのセミナー、シンポジウムの開催
3. 女子学生等を対象とした就職セミナー等の開催

五 男女共同参画社会のための啓発事業

1. 機関紙(誌)、教育・研究等に関する啓発書の発行
2. ホームページの開設・運営

その他目的を達成するために必要な事業

- ※ 特定非営利活動に係る事業に支障がない限り行うものとし、その収益は、同事業に充てるものとする。
- 一 事務処理サービス事業
- 二 機関紙(誌)への広告掲載事業
- 三 編集、出版、印刷およびデジタルコンテンツの制作事業
- 四 衣料品、文具、生活雑貨の企画販売事業

【事務局より】

お茶の水学術事業会へのご入会、お茶の水ブックレット・お茶大ゴーフル・絵葉書・クリアファイル・一筆箋のご注文は、HPの専用フォームをご活用ください。

<https://www.npo-ochanomizu.org/>

※ お茶の水女子大学のHP(<https://www.ocha.ac.jp/>)「後援会・同窓会・事業会」タブからもお入りいただくことができます。

電話・FAX・メールでも受け付けております。

TEL&FAX: 03-5976-1478

E-mail: info@npo-ochanomizu.org

夢のつばさ♥プロジェクト

「夢のつばさ♥プロジェクト」は、東日本大震災で親を失った子どもたちを長期にわたって支援することを目的として、お茶の水学術事業会を中心としたNPO法人4団体によって進められている事業です。

夢のつばさプロジェクトでは、2024年10月13日(日)、仙台市民会館にて「2024秋の交流会」を実施しました。また12月21日(土)～22日(日)には「2024年冬キャンプ」を青梅市のプリヂストン保養所 奥多摩園にて行いました。

1. 2024 秋の交流会

【日程】2024年10月13日(日) 日帰り

【開催地】仙台市民会館 トークネットホール仙台(宮城県仙台市)

【参加者】子ども:4名(高校生4名)、保護者:2名、学生スタッフ・OB/OG(社会人を含む):14名、社会人スタッフ:2名

◆主な内容

9:30	仙台駅ステンドグラス前 集合 会場到着・準備	保護者懇談会
10:10	開会式 流行語大賞自己紹介ゲーム 企画説明 スパイ14分の2 ドミノ並べ	
昼食後	塩コショウゲーム 気配斬り 利きポテチ	
15:00 16:00	閉会式、会場片付け 仙台駅到着・解散	

コロナで様々な制約が課されていた交流会も、今回は以前どおりに昼食も用意し、午前・午後をまたいでいくつかの企画を行うことができました。最初に自己紹介を兼ねて、「流行語大賞自己紹介ゲーム」を行いました。前に出て簡単に自己紹介をした後、これまでの流行語大賞受賞作品が書かれたカードを年代順に並べ替えるというゲームです。参加者同士が時代背景を説明し合い、終始和やかな雰囲気で行いました。様々な年齢層がかかわる夢のつばさにぴったりのゲームで最初から盛り上がり、その後も企画した学生たちの工夫がたくさん感じられました。

また、保護者の方にもご参加いただき、保護者懇親会を開催しました。保護者の方たちも、お互い、久しぶりの会話を楽しんでおられ、こうした集まりがほっとするひと時を作っているように見受けられて、大変うれしく思いました。子どもたちの学校や家庭での様子、進路についてなど様々な話題を伺うことができました。

今回は、子どもたちに日程の希望を取ったところ、土曜日と日曜日のちょうど半分ずつに分かれてしまいました。大学進学を決めた子どもたちが参加を希望する日曜日に、お祝いを兼ねて実施することになったので、土曜日を希望した子どもたちが参加できず、本当に残念で、また申し訳ないことでした。今後の活動がよりよいものになるよう、一層努力していきたいと思いました。

2. 2024 冬キャンプ

【日程】2024年12月21日(土)～22日(日) 1泊2日

【開催地】プリヂストン保養所 奥多摩園(青梅市)、アーチゾン美術館(京橋)

【参加者】子ども:15名(高校生7名、大学生5名、社会人3名)、学生スタッフ・OB/OG(社会人を含む):22名、社会人スタッフ/協力者:6名

1日目(12月21日)	盛岡、仙台、郡山から送迎 アーチゾン美術館 奥多摩園着 自由時間 クリスマスディナー 美術鑑賞振り返り
2日目(12月22日)	奥多摩園発 同窓会(於:お茶の水女子大学 食堂) 盛岡、仙台、郡山へ送迎

今回は、公益財団法人石橋財団が運営するアーチゾン美術館で美術鑑賞を行いました。若い感受性の豊かな時に美術作品に触れる機会をと願っていましたが、美術館の改装もあり、ようやく実現しました。学生たちがワークシートを用意し、子どもたちはそれを活用しながら、それぞれ美術館内を回り、立体的な作品を楽しんだり、モネやピカソなどの有名作品に思わず足を止めたりしていました。

夕食に、奥多摩園が用意してくださった素敵なクリスマスディナーをいただいた後で、美術鑑賞の振り返りの時間を設けて感想をお互いに話し合い、ちょっと大人のおしゃれなクリスマスの夜を楽しみました。そしていつものように(株)サンリオからのプレゼントが贈られ、楽しそうな声が上がっていました。



アーチゾン美術館



美術鑑賞振り返り

2日目、冬キャンプの企画終了後にお茶の水女子大学食堂で行われた、夢のつばさプロジェクトのOB/OG主催の同窓会に参加しました。近況報告をしたり、今までにスタッフがプレゼントしてきたキャンプのアルバムやバースデーカードなどを見返したりしながら懐かしい思い出話に花を咲かせました。子どもたちが皆、夢のつばさは「自分らしく居ていい場所」や「家族のような存在」と話していて、大変うれしいことでした。(夢のつばさ♥プロジェクト)

ご寄付のお願い

【口座】三井住友銀行 大塚支店(店番号227) 普通1284200

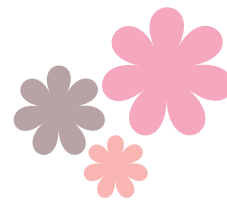
【名称】特定非営利活動法人 お茶の水学術事業会 理事長 柴 真理子 ※ 夢のつばさ♥プロジェクトの専用口座です。

※ 恐れ入りますが、税金控除の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。

ご寄付いただく際には、ご芳名、ご住所(連絡先)を下記までお知らせください。

連絡先: 事務担当 滝澤公子 FAX: 03-5976-1478 E-mail: tsubasa@npo-ochanomizu.org

お茶の水女子大学 イベント情報



2025 年 3 月以降に開催される各種イベントの知らせです。

お茶の水女子大学 HP も併せてご覧ください。<https://www.ocha.ac.jp/>

※いずれも参加費は無料です。

開催日時	イベント・講座名	備考
3月7日(金) 15:00 ~ 16:30	2024 年度 第 15 回ブータン連続セミナー 「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ (60) —スイス人によるブータンの記録映像 (1974 ~ 1982 年) 後編—」	【形 式】 Zoom によるリアルタイム配信 【主 催】 お茶の水女子大学グローバル協力センター・日本ブータン研究所 【詳 細】 https://www.cf.ocha.ac.jp/cwed/event/e20250307.html 【申込み】 https://forms.gle/kidJdmdp9RQGVEA6A 【問合せ】 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp (グローバル協力センター講師 平山雄大)
3月23日(日) 14:00 ~ 15:30	第 49 回 リケジョー未来シンポジウム 【講演者】 村山友理氏 (東京大学大学院工学研究科助教) 石川千秋氏 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)	【形 式】 ハイブリッド開催 (お茶の水女子大学本館 306 室 & Zoom) 【主 催】 お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所 【対 象】 中学生・高校生、保護者、教員、大学生・大学院生 【詳 細】 http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】 HP 内の専用フォームにて 【問合せ】 ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp
4月6日(日) 13:30 ~ 15:30	第 15 回中高生のための先端科学セミナー 【講演者】 山中明氏 (山口大学大学院創成科学研究科教授) 田川訓史氏 (広島大学瀬戸内 CN 国際共同研究センター臨海実験所特定教授)	【形 式】 ハイブリッド開催 (お茶の水女子大学国際交流留学生プラザ & Zoom) 【主 催】 お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所 【対 象】 中学生・高校生、保護者、教員、大学生・大学院生 【詳 細】 http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】 HP 内の専用フォームにて 【問合せ】 ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp
4月27日(日) 14:00 ~ 16:15	お茶の水女子大学創立 150 周年記念 第 50 回 リケジョー未来スペシャル 【講演者】 柴田紗知子氏 (弁理士法人あしたば国際特許事務所) 黒木菜保子氏 (本学理学部助教) 伊藤舞花氏 (株式会社ベネッセコーポレーション)	【形 式】 ハイブリッド開催 (お茶の水女子大学本館 306 室 & Zoom) 【主 催】 お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所 【対 象】 中学生・高校生、保護者、教員、大学生・大学院生 【詳 細】 http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】 HP 内の専用フォームにて 【問合せ】 ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp
5月10日(土) 14:00 ~ 17:00	「教科授業で育成するコンピテンシー」(仮) 【講演者】 藤原大樹先生 (鳴門教育大学) 他	【形 式】 Zoom 等によるオンライン開催 【主 催】 お茶の水女子大学コンピテンシー育成開発研究所 【詳 細】 https://www.cf.ocha.ac.jp/icd/index.html 【申込み】 HP 内の専用フォームにて 【問合せ】 : icd-info@cc.ocha.ac.jp

お茶の水学術事業会よりお知らせ

2025 年度 共催講演会・助成金事業の申請を受け付けます！

【対象となる事業期間】 2025 年 4 月 1 日 ~ 2026 年 3 月 31 日
【申請受付】 2025 年 4 月 1 日 ~ 5 月 31 日
【申請方法】 HP よりフォーマットをダウンロードしてご記入いただき、必要書類を添えて、メール添付もしくは郵送にてお茶の水学術事業会の事務局までお送りください。

○ 共催講演会

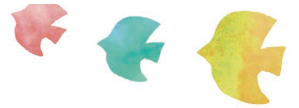
- 【条 件】・対象を特定の機関・団体に限定しないこと
・参加予定人数が 50 名以上であること
【内 容】・講師謝礼金の助成 (3 万円以内)
・講師の交通費の支給 (実費、下級運賃で上限 5 万円)
・広報のお手伝い

○ 助成金事業

※ 他の助成金との併用可

- 【対 象】 学術・調査・研究・教育等の活動、出版事業、ボランティア活動、国際協力研究・教育支援事業、保育及び子どもの健全育成のための活動
【助成金額】 対象となる事業費の 2 分の 1 以内とし、1 件につき 10 万円まで

ご連絡・お問合わせは下記までお願いいたします。
お茶の水学術事業会事務局
Email : info@npo-ochanomizu.org
TEL : 03-5976-1478 (月 ~ 金 10 時 ~ 16 時)



事業会スタッフのよもやま話

お茶の水学術事業会のスタッフが、半生を振り返ったり、自身の経験を通して考えたことをつづやきます。

私と仕事（上）

宇津木美恵子
(昭和 57 年生物学科卒)

私が 20 歳前後の時代（1980 年頃）のことです。女性は企業で数年働いて（“腰掛就職”と言いました）、25 歳前後で結婚し（25 歳で結婚しないと“12 月 25 日の売れ残りのクリスマスケーキ”と揶揄されました）、結婚が出産で退職（「妊娠しました」と企業の上司に報告すると、自動的に「3 か月後の日程が退職日だね」と確認されました）、専業主婦となり、家事子育てを担う。子育てが一段落したところで扶養範囲でのパートの仕事につく。家事などに影響が出ない程度に。という生き方が一般的だったように思います。少なくとも、昭和一桁生まれの母は、そういう生き方をしてくて、娘の私も当然そのように生きるものだと考えていました。サラリーマン世帯の女性の生き方の社会通念となっていたようです。仕事と家事の男女分担制の家族に一番有利な社会制度となっていました。今もふとした拍子に、母の言葉が耳の奥に響きます。「女性よりも男性の方が能力は高いのよ。お料理人だってプロはみんな男性でしょう」と。今では、「なんてことを！」と思います。

したがって大学進学の時、専攻分野と将来の仕事との関連性は何も考えず、一生働くななんて思いもありませんでした。短大卒で花の OL が最高峰。おそらく教師や看護師、研究者などの仕事を選択する人や特別な能力のある人や自営業の人以外は、同じような環境だったのではないのでしょうか。

多分に漏れず、私も 4 大卒業後、企業で 5 年働き、出産退職。そのころ男女雇用機会均等法が制定されましたが、私にとっては関係のないことでした。当時、職場に育児休業という制度はありましたが、実際に育休を取っている先輩は、陰では白い目で見られる雰囲気でした。私は専業主婦として、何の疑いもなく 17 年間で過ごしました。おかげで、心置きなく子育てを楽しむことができました。

末っ子が小学校 3 年生の頃、偶然巡り合った知人の紹介で、パートの仕事を開始しました。研究所の実験補助の仕事です。もともと研究職には興味がありました。工学系の研究室で、

私が好きで専攻した生物学とは全く異なる分野でした。働く仕事の“内容”ではなく、働ける仕事の“条件”が何よりも大切でした。小学生がいるため、夏休み、冬休み、春休み、短縮授業の期間は働けません。PTA の役員仕事は最優先です。もちろん子どもが病気の時は治るまで働けません。その研究室は、このような条件でも受け入れてくれたので定年退職まで働くことができました。

末っ子が大学生になりました。もっと時間的に多く働きたいなと思いましたが、当時勤務していた研究所ではパートは時間の制限があったので、かないません。そこで、扶養範囲内でダブルワークを始めました。かつて取得したホームヘルパー 3 級（現：介護職員初任者研修）の資格を使って、介護施設でのデイサービスの仕事です。資格があるから時給は高いのかなと思っていましたが、研究補助の仕事と同様、最低賃金程度のお給料でした。それはともかく入浴介助、食事介助、おむつ交換、レクリエーション、車送迎の付き添いなど、沢山のことを覚える機会に恵まれました。

さらに、市採用の会計年度任用職員として、小学校の支援が必要な児童の付き添いをする支援員をしました。発達障害について自ら学びながら、子どもたちの笑顔から元気をもらいました。たまには一日派遣の仕事。

荷物の発送作業や食品の宅配商品の袋詰め、倉庫内での空の運搬ケースの整理など、学生のような気分で、年末年始などの隙間時間を利用してバイトもしました。また、近所のスーパーのモーニングスタッフとして、朝の 6 時から 10 時まで、トイレ掃除など店舗内清掃の仕事もしました。ダブルワークのおかげで、確定申告も経験。税金の仕組みも初めて知りました。

そしてとうとう 60 歳。一般的な定年退職制度が、パートの私にも通用する年齢になりました。さて私と仕事はどうなるのか・・・

次回に続く～



お茶大女性リーダー育成塾：微音塾 2025 年度 塾生募集

微音塾ホームページ <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/kiin/>
または、「きいんじゅく」で検索してご覧ください。

【2025 年度 説明会】

●日 時：2025 年 4 月 5 日（土）午前 11:00～12:00

●方 式：オンライン ※お申込みいただいた方に事前には ZoomURL をお送りいたします。

●参加費：無料

＜お申込みはこちら＞

ホームページ「お知らせ」→「2025 年度 微音塾説明会のお知らせ」→「お申込」

●内 容（詳細はホームページの「お知らせ」に掲載いたします。）

①微音塾の概要（2025 年度の特徴など）②塾生の声 ③質疑応答

【2025 年度 開催概要】

2025 年度は、女性のエンパワーメントとリーダーシップ講座（E）、プロフェッショナルレクチャー（P）、ビジネス講座（B）計 14 科目です。起業、国際協力、ジェンダー、人的資本経営、環境、脱炭素、男女賃金格差、ウェルビーイング、コーチング、イノベーション、デザイン、マーケティング戦略、VUCA 時代、経営戦略など、さまざまな講座をご用意しております。

最新情報はパンフレット・ホームページ・X をご参照ください。

時 間	① 土曜日 13:30～15:00（90 分） ② 土曜日 13:30～15:00、15:10～16:40（180 分） ※途中休憩あり ③ 平日夜間 19:00～20:30（90 分）
方 式	オンライン（Zoom）と対面のハイブリッド ※ 1 科目から受講可能です。 ※ 最新情報は HP、X をご覧ください。



HP

X

【2025 年度 開催講座】 2025 年 5 月～7 月

区分	開催日 時間	開催方式	テーマ	講師
E	5/10 ②	対面・ オンライン	国境を越えた社会起業家としてのあゆみ：ルッキズムについて考えよう	前川 裕奈
E	5/24 ②	対面・ オンライン	人的資本経営のトレンドと主要トピックス—要点解説と考える視点—	大和田 順子
P	6/7・14 ②	オンライン	CN/GX の最前線 一脱炭素社会の実現を目指して—	松田 有希
P	6/21 ②	オンライン	教育の課題をジェンダーの視点から考える	小玉 亮子
E	7/5 ②	対面・ オンライン	日本の女性の働き方はどう特徴づけられるのか	永瀬 伸子
E	7/12 ①	オンライン	しなやかに組織で道を切り開く	矢島 美代
B	7/19・26 ②	オンライン	ビジネスリーダーのための会計入門	成岡 浩一

8 月以降の開催予定日

【B】8/2・23、9/6・20、10/18・25 【P】8/8、10/4

【E】12/6・13

〈お問い合わせ・連絡先〉

お茶大女性リーダー育成塾：

微音塾 事務局 E-mail: kiin-le@cc.ocha.ac.jp

桜蔭会よりご案内

桜蔭塾

<https://www.ouinjuku.com/>

お茶の水女子大学内外の先生方や、桜蔭会会員の方を講師に迎え、対面やオンラインで開催する「学びと交流の場」です。



桜蔭塾

●第 3 回 同窓生のキャリアシェアリング

初開催！【20 代～ 40 代のオンライン交流会】

～育児、キャリア、介護、なんでも情報共有しよう～

<https://www.ouinjuku.com/careershare-no3>

【日 時】4 月 19 日（土）14:00～16:00

【形 式】Zoom

【対 象】20 代～ 40 代のお茶大卒業生、修了生

【参 加 費】無料

【申 込 締 切】4 月 15 日（火）

●桜蔭塾「ブリッジ入門講座」

<https://www.ouinjuku.com/bridge>

【日 時】毎月 2 回 10:00～12:00

【開 催 場 所】国際交流留学生プラザ 3F 会議室

【講 師】大塩裕子 先生

【参 加 費】3,000 円/月（含：テキスト代）

【対 象】どなたでも！

●桜蔭塾講演

【受 講 料】桜蔭会会員：無料

お茶大在学（大学院を含む）：無料

非会員：1,000 円

1) 第 26 回 <https://www.ouinjuku.com/koza26>

高崎 みどり 氏（お茶の水女子大学名誉教授・桜蔭会会長）

「桜蔭会の歴史を共有してみませんか～120 年の間に輝く 6 つの活動～」

【日 時】5 月 25 日（日）14:00～15:30

【会 場】国際交流留学生プラザ 4F + Zoom

【申 込 締 切】5 月 20 日（火）

2) 第 27 回 <https://www.ouinjuku.com/koza27>

高橋 哲 氏（お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系 准教授）

「児童・生徒の問題行動を眺める視点～非行と自傷行為を例に～」

【日 時】6 月 8 日（日）14:00～15:30

【会 場】国際交流留学生プラザ 4F + Zoom

【申 込 締 切】6 月 3 日（火）

就活応援 Zoom で OG 訪問

学生さんのお申し込み＆OG アドバイザー

募集中！

就活に悩んでいる学生さんと希望の OG

アドバイザーとで「1対1」の就活相談

（30 分～45 分/回）ができます。



学生 OG 訪問
お申込み



OG アドバイザー
ご登録

編集 後記

事務局で雑談をしていると、人の数だけ生き方があると感じます。自分より少し先を歩いている方の言葉に「経験知あなとりがたし！」と唸ることもしばしば。今回からスタートした「事業会スタッフのよもやま話」のコーナーでは、私たちが経験から学んだこと、日常生活の中で感じていること等、少し紹介してみたいと思います。

広告募集

このページに広告を掲載しませんか？次号は 2025 年 6 月に 2500 部発行予定です。会員の皆様ははじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1 回につき 20,000 円。詳しくは下記までお問い合わせください。

事務局

OPEN 月～金 10:00～16:00

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部 3 号館 204

TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail: info@npo-ochanomizu.org

<https://www.npo-ochanomizu.org>

※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。



◆事務局所在地

東京都文京区大塚 2-1-1
お茶の水女子大学
理学部 3 号館 204

◆交通機関

地下鉄 丸の内線

茗荷谷駅から徒歩 7 分

地下鉄 有楽町線

護国寺駅から徒歩 8 分

都バス

大塚 2 丁目バス停すぐ